

7.5 総力で津田沼佐倉

 動労千葉と空港反対同盟・支援共闘の先制決起の前に粉碎された六・二八「再建津田沼支部」デッチ上げ策動を、「本部」反動分子は、再び七月五日にも強行しようとしている。動労千葉の組織と運動を、当局の庇護の下で日常不断に破壊することのみを唯一の目的とするダニのような反動的暴力分子の出先機関を、わが職場にデッチ上げようというのだ。誰がこれを許せるといふのか。われわれは断じてこれを許さない！ 実力粉碎あるのみであることを宣言する。

鉄労以下の御用機関Ⅱ「再建支部」など断じて許さない！

そもそも彼ら一にぎりの反動裏切り分子が画策している「再建支部・地本」のデッチ上げは、動労千葉への破壊と敵対のみを目的とするおよそ労働組合・運動の名に値しない反階級的破壊者集団の出先機関を、われわれが血と汗で営々と築き上げてきたわれわれの職場の中にデッチ上げようという断じて許せない犯罪行為であることをはっきりさせねばならない。

乗務員運用合理化をはじめとする三十五万人体制合理化を卒先して引きつけ、貨物安定宣言で機関区労働者を平然と売り渡していく組合、三里塚農民や地域住民に敵対し、三里塚ジェット闘争をつぶし、当局・公団の意のままに国鉄労働者をジェット燃料輸送に永久的につなぎとめる御用組合の結成を狙っているのだ。

そして、反動的暴力と排除の論理で、ただひたすら革マル派の「水本」デマ運動にのみ情熱を注ぐ、そのようなセクト的「組合」をつくらうというのだ。

全国大会に焦り、ペテンとどろ喝でデッチ上げを画策！

第二に、彼ら反動裏切り分子らの全くの脆弱性と敗北はすでに明らかである。

一年半以上にわたって動労「本部」は、破壊以外に何の積極的能力も気力もないこれら一にぎりの反動腐敗分子どものために、のべ数万名の暴力オルグ動員とのべ数億円の貴重な組合費をつぎこんできたにもかかわらず、一ミリも進展せず「本部」中央指導部・三信ビル官僚の責任問題に発展しているばかりか、新小岩でのA氏の動労千葉復帰や短期転勤者を中心に内部矛盾が拡大し、もたなくなってしまうているのである。

あまりの引きまわしと利用主義に嫌気がさし動揺している短期転勤者の「四・一七や四・一五みたいな暴力はまちがっている」「本部が処分要請を当局に出したのはおかしい」などの疑問や意見に対して「本部」反動分子は「それはそうだ。しかしあれは職場に『支部』が無かったから起った。『支部』を結成してくれば、そのようなことはもう無くなる」という全く見えすいたペテンをろうしているのだ。

なんたるペテンか！ 事実は全く逆なのだ。全く実体のないものとはいえ、もし「再建支部・地本」などデッチ上げるような事があれば、それを唯一の足がかりとして職場に入りこむ「本部」反動暴力集団との三百六十五日一二十四時間、職場といわず家庭といわず、「四・一五」のような事態をも含む最も熾烈な全面的な組織闘争が今までの以上に連日にわたっていよいよ本格的に開始されるのである。マル生闘争時の鉄労解体闘争で周知の如く、そのような階級的裏切り者に対しては、個人個人の人格はおろか家庭そのものの存在をもかけた最も熾烈なつぶし合いの毎日に突入するのだという事は常識である。

われわれは、これまで生粋の裏切り腐敗分子土屋粹や斉藤(吉)、革マルから送りこまれたスパイ分子嶋田誠らとは一定の区別と配慮を払って短期転勤者の事情をくんできたのであるが、いかなる理由であれ「再建支部」デッチ上げに組するとすれば、もはやその配慮を自らが放棄することを意味する。あえてその道を選ぶ諸君はそうしたまえ。選択権は諸君にある。われわれと、そして反対同盟や支援共闘に結集する全ての闘う人民は、今までの水準をはるかに越える、時と場所を選ばぬ全面攻撃をはっきりと宣言するのみである。

全ての闘う仲間たち！ 七・五「再建支部」デッチ上げ粉碎をもって、一切の制約をとりはずした全面攻勢にうって出よう！